

# 消費者団体千葉県連絡会主催 エネルギー・環境・福島復興学習会

## 「きいてみよう。アルプス(ALPS)処理水のこと」 開催報告



日 時：2022年7月19日（火）10：00～11：45  
会 場：千葉市生涯学習センター ホール  
参 加 者：会場参加 31人（講師、事務局含む）  
後日 YouTube 視聴のべ 32人（8月1日時点）

### 概 要：

東日本大震災から11年が経ちました。東京電力福島第一原子力発電所では、粛々と廃炉作業が進んでいます。

今、高濃度の放射性物質を含む「汚染水」の浄化処理をおこなった後の「処理水」の海洋投棄が大きな問題となっています。

今回の学習会では、「汚染水」と「処理水」、廃炉の状況や今後予定されている「処理水」の海洋投棄のことなどと合わせ、私たちが考えなければならない基本的な問題や課題について、国と東京電力からお話いただきました。

初めに、資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 原子力発電所事故収束対応室 室長補佐 岩渕 雄太さんから、アルプス（ALPS）処理水とそこに含まれるトリチウムの説明、安全性や国民・国際社会への理解の醸成について、ご説明いただきました。次に東京電力ホールディングス株式会社から、福島第一廃炉推進カンパニープロジェクトマネジメント室 部長 斎藤 幹



講師：国 岩渕雄太さん



講師：東京電力 斎藤幹雄さん

雄さんにご説明いただきました。冒頭、福島第一原子力発電所事故発生について謝罪されたのち、廃炉の作業と汚染水が発生する理由、汚染水処理のしくみについて話されました。続いて、処理水（汚染水から放射性物質セシウム・ストロンチウムを除去したもの）に関する政府の基本方針の下で海底トンネルを設置し、2023年春からそのトンネルで沿岸約1km先の海洋に処理水を排出すると説明されました。また

安全性についても、処理水中に残留したトリチウム濃度のチェックや海洋生物等の海域モニタリングなどを強化することで確認していくこと、国際原子力機関（IAEA）による安全確認の受け入れ、また様々なステークホルダーによる視察の機会を増やすなど、その取り組みについて話されました。

その後の質疑応答ではトリチウムの安全性、廃炉作業やその終了時期など、幅広い質問が出されました。終了後のアンケートでは、「知識を得て理解することが消費者として必要だとわかりました。」といった声がありました。千葉県連絡会では、10月に福島第一原子力発電所廃炉見学会を予定しています。（文責：事務局）

